

旭北地区

きらっとあさひプラン

第3期 旭区地域福祉保健計画
平成28年度～32年度

地区別 計画



旭北地区は、中堀川の上流域一帯の丘陵地に広がる戸建て住宅を中心とした閑静な住宅地です。また、市街化調整区域も多く緑豊かな地区でもあります。

戸建て住宅地に初期入所した世代の構成比が高くなっていますが、年齢構成のデータから次世代の定着もみられます。

■めざす地区の姿

～少子高齢化の進行が顕著な旭北地区～

『高齢者等の見守り・支援体制の充実』『少子化の進行抑制等の活動により人口の減少抑制や活性維持』『交通環境や自然環境、住民相互の見守り環境の整備』により子どもから高齢者までの全世代が「安心して住み続けられる地域づくり」を目指します。

■3期計画のポイント

～2期からの継続の4つのテーマ(部会)に加えて～

部会共通の目標として「地域活動のネットワークづくり」を設定。「地域ケアプラザとの連携」「まちぐるみ活動の周知」「次世代後継者の発掘・育成」を今回新たに計画に加えています。

■目標A (部会共通)

運動する区計画の柱 1 地域の福祉力アップ

地域活動のネットワークづくり

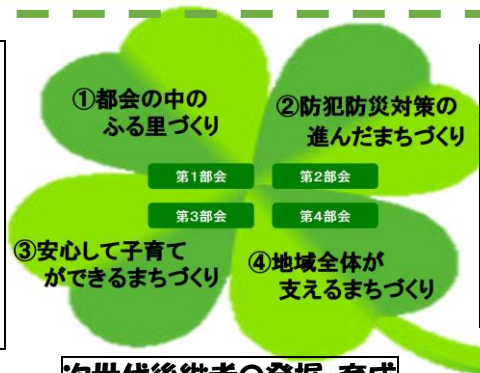
■具体的な取組

- ・地域ケアプラザとの連携により、ケアプラザの利用・活用を含めたネットワークづくりに取り組む。
- ・まちぐるみ福祉推進会議(地福計画)の広報活動を通じて地域への周知をし、協力を求める。
- ・地域の皆さんが地域ケアプラザやまちぐるみ活動に気軽に参加できる環境づくりをすすめ、次世代後継者の発掘・育成につなげる。

3期は「4つの部会」によるよつばのクローバーを共通課題で取り囲み、まちぐるみ活動の推進に取り組みます。

地域活動のネットワークづくり(共通)

地域ケアプラザとの連携



まちぐるみ活動の周知

次世代後継者の発掘・育成

■目標B (第1部会)

運動する区計画の柱 1 地域の福祉力アップ

都会の中のふる里づくり

■具体的な取組

- ・地区街路の早期整備により地区のイメージアップを図り、併せて交通の安全と利便性の向上を目指す。
- ・まちづくりを支える自治会のあり方を考え、新規立ち上げや課題を抱える自治会への支援を進める。
- ・地域の皆さんや小中学校との連携により、中堀川とその周辺を、水生昆虫や植物が生息できる水辺環境づくりに取り組む。



←中堀川清掃活動

花と緑でイメージアップ→



まちぐるみ福祉推進会議

■目標C (第2部会)

安全・安心な防犯防災対策の進んだまちづくり

■具体的な取組

- ・各地域の消火設備の充実と、小中学生の防災活動参加による災害対策と防災意識の向上を図る。
- ・学童の登下校時の見守り体制を拡充する。
- ・認知症等要援護者のサポートシステムの構築による犯罪被害や事故の防止の体制強化を図る。



防災訓練

上白根小・学童見守り



白根小・学童見守り

■目標D (第3部会)

安心して子育てができるまちづくり

■具体的な取組

- ・親子のつどいの場や子育て支援の場の維持拡大を図る。また親に対しては子育てヒントを提供し、親の孤立の防止やストレスの軽減を図る。
- ・親や支援者向けに子どもとの関わり方や虐待防止の研修会を開催し、虐待予防(事故防止)につなげる。
- ・小中学生のボランティア活動への意識の向上を図り、地域活動への参加の広がりを目指す。



竹っこくらぶ／親子で遊ぼう会



虐待防止研修会



小学校校庭(様子)

■目標E (第4部会)

高齢者・障がい者を地域全体で支えるまちづくり

■具体的な取組

- ・高齢者や障がい者に対しては災害時支援に加え、日常的なサポートを含めた見守り・支援体制を充実させ、各自治会との相互連携により地域全体で支える仕組みを確立する。
- ・各地域でのラジオ体操による健康づくりの他、ケアプラザと連携して健康教室や健康相談を推進し、地区全体の健康維持を図る。



むつみ会

ふれあいサロン



ラジオ体操↑

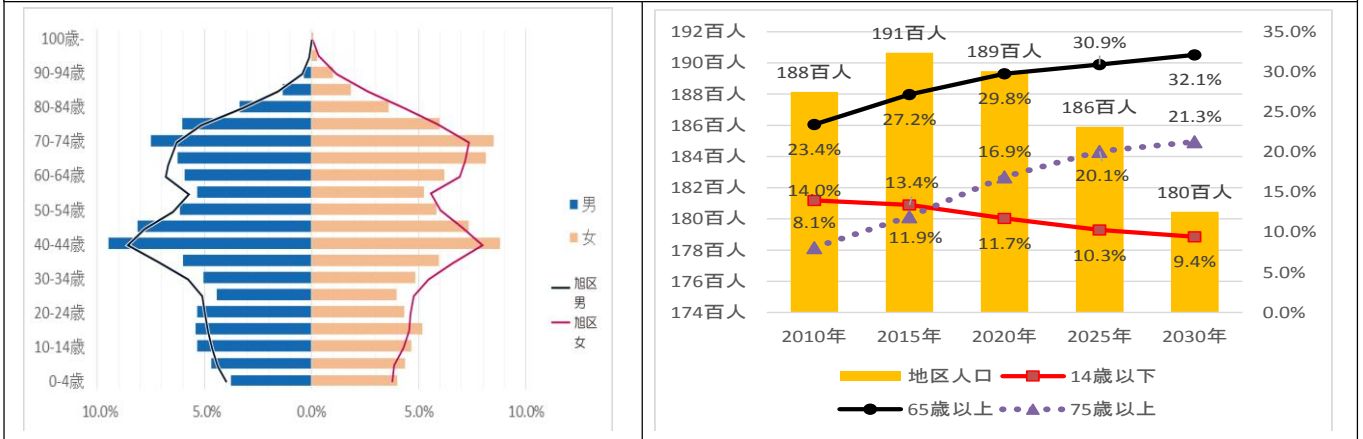


健康教室→

■人口データに見る地区の特徴

- ・人口ピラミッド 2015年3月を見ると、旭区（折れ線）に比べ70歳～79歳及び40歳～49歳、10歳～19歳の層の比率が高く、3世代による定住傾向が読み取れます。
- ・人口の推移では、この5年間で約300人増加しています。高齢化率は3.8%増で、旭区平均とほぼ同じ値になっています。
- ・世帯数はこの5年間で概ね300戸増加しています。また、世帯人員は2.41人/戸で区内の最高値となっています。
- ・地区の将来人口の予測では、2015年をピークとして、2020年で約18900人、2025年で約18600人と見込まれます。また、高齢化率は2020年で約29.8%、2025年で約30.9%と増加しますが、伸び率は緩やかになると見込まれます。

※人口・世帯数の数値は町丁目単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。



■2期計画の振り返り

<第1部会>

- ・運営問題で悩む小規模自治会の県警白根自治会の状況を部会が知り、隣接する東急白根自治会を交えて対応を協議。結果、県警自治会は東急自治会に統合を決定。26年4月に東急自治会の一員になった。
- ・旭台循環バス分科会の数回にわたる討議に沿線の自治会トップが集まった。計画は中止となったが、ひとつのテーマに会長が一堂に会し、有意義で盛り上がった議論の場になった。この機会により層別会合の利点を実感した。

<第2部会>

- ・消火栓、初期消火用消火器の場所については、単会ごとに、ほとんどマップ化されている。
- ・詳細検討はできていないが、防災マニュアル(案)を作成した。
- ・全体の調整にまでは至っていないが、学童見守りポイント調査は完了した。
- ・停電時の信号機対策(案)を検討中。但し、警察への働きかけをしているが、まだ、現地での指導は行われていない。

<第3部会>

- ・行政が主導する「赤ちゃん教室」「こんにちは赤ちゃん訪問」を介し、3つの子育て広場が、地域の親子に認知（周知）されるようになった。
- ・2つの保育園の保育士との連携強化により、親子への支援が拡充した。

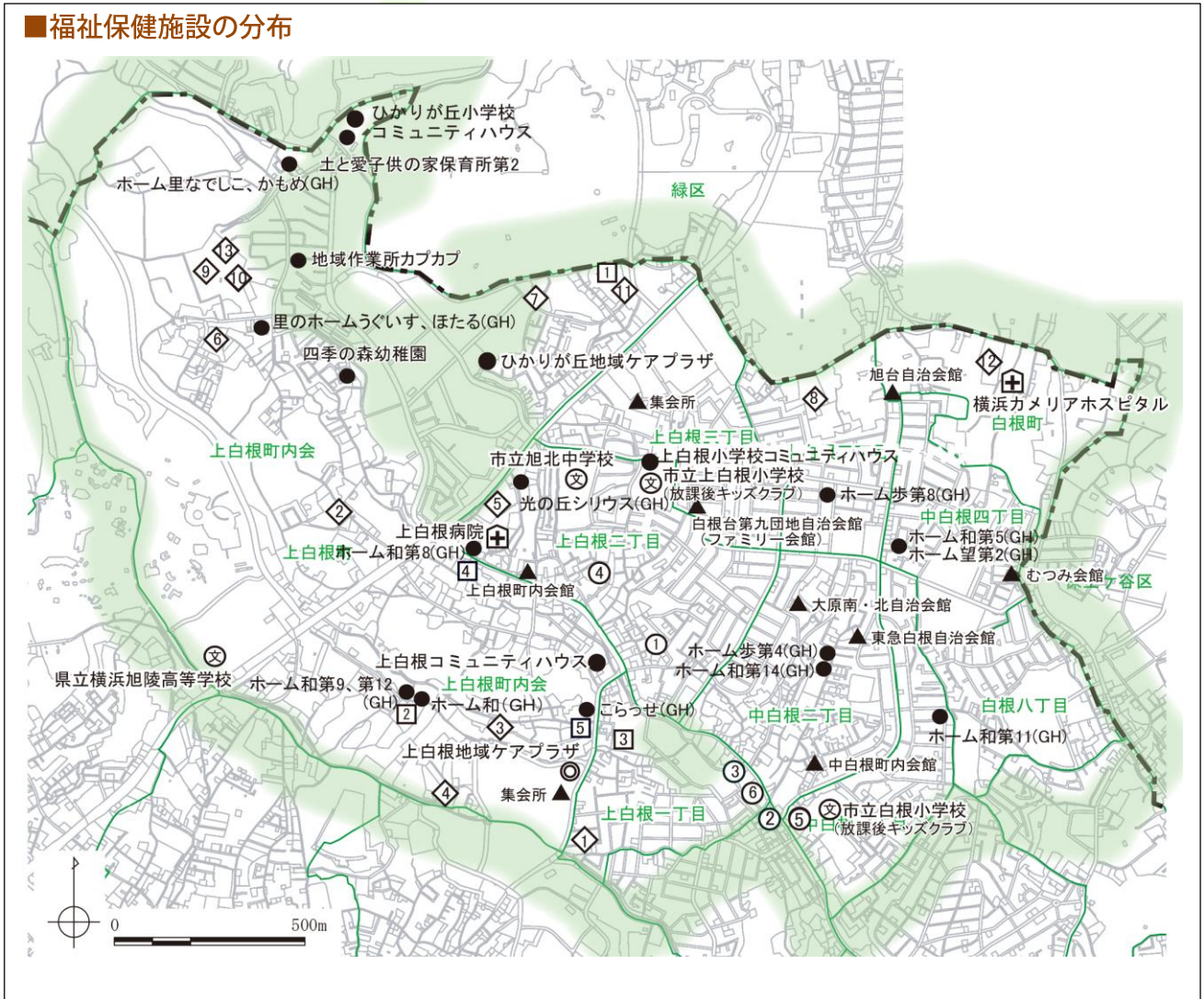
<第4部会>

- ・自治会の見守り・支援状況の把握のため自治会にアンケート調査を実施した。（平成25年3月実施）
- ・アンケート調査の事例紹介の集いを開催した（平成25年9月）。結果、「啓蒙活動」の必要性和「あんしんカード」の見直し・再配布の必要性を確認した。

■地区の福祉課題

- ・要支援者の見守り・支援体制が不十分。見守りの活動は、高齢者だけでなく、障がい者にも広げていくことが必要。
- ・若い親に対する幼児期の子育て支援により、親の育児不安の軽減やDV等の事故の防止につなげたい。
- ・現在行っている学童の見守り活動も十分とは言えない。高齢者の犯罪や事故の防止体制は未整備。
- ・一部で行われているラジオ体操や健康づくりの活動を地域全体に広げていきたい。
- ・ケアプラザ等の地区内施設の利用・活用はまだ十分とはいえない。地域住民が気軽に活用できるようにするための施設活動の周知や、システム作りが必要。
- ・社会に対するボランティア意識は小中学生の頃から育むことが大切と思われるが、現在行われているジュニアボランティアについては受け入れ側の機能的な限界もあり、広く参加できる状況にない。防災活動も含め、小中学生のボランティア活動の場を広げ、意識の向上につなげていきたい。
- ・地区ボランティアの後継者については当地区でも大きな課題である。
- ・「まちぐるみ福祉推進会議」（＝地福+連合活動）の活動に対する地域の理解度が低いように思われる。活動に協力いただくためにも、広報などで周知を図る必要がある。
- ・横浜市中心部や都心へのアクセスが悪いためか、高齢化や転居で空き家になってもなかなか埋まらず、空き家が目立ってきている。

■福祉保健施設の分布



■施設リスト

子ども

認可保育所

- ① 土と愛子供の家保育所
- ② グローバルキッズ白根保育園

小規模保育事業

- ③ ちやいれつく上白根保育室

幼稚園

- ④ 上白根幼稚園
- ⑤ 白根幼稚園

親と子のつどい

- ⑥ 親子サロン メダカ

障害者

障害者施設

- ① 偕恵
- ② しらねの里
- ③ 辻のあかり
- ④ 偕恵シグナル
- ⑤ 咲顔の詩

高齢者

小規模多機能居宅介護

- ① ふれあいの里 たちばな

認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

- ② みんなの家 横浜上白根
- ③ サン・フローラ上白根
- ④ シャローム・ミルトスの木

軽費老人ホーム

- ⑤ 上白根園

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

- ⑥ サンライズヒル横浜
- ⑦ 椿寿
- ⑧ グリーンライフ
- ⑨ ヴィラ横浜
- ⑩ ヴィラ 桜ヶ丘

介護老人保健施設

- ⑪ 四季の森
- ⑫ リハセンターさわやか
- ⑬ ケアホーム横浜